市政トピックス

ICT先端技術を活用―農薬や肥料を使わず育てた米を初収穫

宮城地区西部の中山間地域では、少子高齢化や人口減少が加速度的に進み、農業の担い手不足による休耕地の増加などが課題となっています。市では、こうした状況を踏まえ、ICT等の先端技術を活用した地域課題の解決に向けた取り組みを進めています。

古くからの農村地帯ながら、近年休耕地が増えている新川地区では、休耕地の活用と農作業の効率化を目的に、本年度より民間企業と連携して、新川地区の町内会有志の協力のもと「早期湛水深水管理水稲栽培」の実証栽培を始めました。これは、水田の水を通常よりも深くすることで、農薬を使わずに雑草の繁殖を抑え、水田の養分を稲に行き渡らせる農法で、水田に設置したセンサー等のICT機器で水位や水温の管理を行い、モバイル端末にデータが送信されるものです。これにより、本来、人の手が必要な現地での水位確認や除草作業が不要になり、稲作の負担軽減を実現。さらに、農薬や肥料を使わずに栽培することで、米の価値を高め、収益性の向上を目指しました。

11月7日には、初めての収穫祭が開催され、地元住民や地域の子どもたちが稲刈りを行い、収穫した新米の試食をしました。住民の方々は、豊かな稲の実りに対する喜びや新しい農法への手応えなどを語りながら、収穫を祝いました。

今後は、水位管理のための水門の自動化など、さらなる省力化を進め、先端技術を活用した地域課題の解決を進めていきます。

▲新川町内会の方々と地域の子どもたちが一緒に収穫を行いました

市政トピックス

町内会がまちの魅力を発信―「太白区二十三景」

太白区では、各地域の名所を写真で紹介する「太白区二十三景」と題した、23枚のポスターを作成しました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により町内会をはじめとする地域団体の活動を十分に行うことができない状況でも、各地域の魅力を発信し、盛り上げようと企画したもの。区内23の連合町内会ごとに、桜の名所や神社など、地元ならではのおすすめスポットを紹介しています。

全地域のポスターを展示するポスター展は、太白区役所では3月26日まで、1月18日から29日までは青葉通地下道ギャラリーで開催するほか、市ホームページからもご覧いただけます。

▲11月に市役所で開催されたポスター展では、会場を訪れた方々が熱心にポスターに見入っていました

市政トピックス

迅速・確実に傷病者を搬送するために

11月13日、七北田川岩切緑地野球場で、ドクターヘリによる救急訓練が県と合同で行われました。ドクターヘリは、医療機器などが装備された救急医療用のヘリコプターで、医師などの医療スタッフが搭乗するもの。ヘリコプターで搬送することにより時間が短縮し、さらに、医師が現場で早期に治療を開始することができるため、救命効果の向上が期待されています。

訓練は、ドクターヘリによる傷病者搬送時の消防隊や救急隊、医療スタッフとの連携確認などを目的に、宮城野消防署管内で重症者が発生し、ドクターヘリを要請したとの想定で実施。七北田川岩切緑地をランデブーポイント（場外離着陸場）とし、消防隊はヘリコプター着陸時に砂が飛ばないよう散水するなどグラウンドの安全管理を、救急隊と医療スタッフは、救急車内での傷病者への応急処置と傷病者を引き継ぐための情報伝達などの手順を確認しました。

今後も訓練を重ね、関係機関との連携を強化しながら安全かつ迅速な救急搬送を実施していきます。

▲さまざまな事態を想定し、救急車とドクターヘリとの傷病者の引き継ぎ訓練を実施しました

市政トピックス

レッサーパンダの双子の愛称は「アケビ」と「グミ」に決定

八木山動物公園フジサキの杜で、昨年6月に誕生したレッサーパンダの双子の愛称が決定し、11月22日に命名式が行われました。

双子の母親などの名前と同様に、果実のなる樹木の名前を付ける条件で愛称を募集し、2千通を超える応募がありました。1匹は才能という花言葉にちなみ、得意なことをたくさん見つけてほしいなどの理由から「アケビ」、もう1匹には丸くかわいい実のイメージがレッサーパンダの愛らしさと通じるなどの理由から「グミ」が選ばれました。命名式では、同じ名前を提案した方の中から抽選で招待された命名者が出席し、来園者が見守る中、愛称が発表されました。

元気いっぱいに過ごしている「アケビ」と「グミ」に会いに来てください。

▲仲良く遊ぶ双子のアケビ（左）とグミ（右）

市政トピックス

組織改正を行いました（1月1日付）

市では、1月1日付で組織改正を行いました。各区役所・宮城総合支所保険年金課医療助成係で行っていた、子ども・母子父子家庭医療費助成、児童手当および心身障害者医療費助成の受付窓口を左記の通り変更しました。

●新たな窓口

	業務内容	窓口
各区役所	子ども・母子父子家庭医療費助成、児童手当	保育給付課子育て給付係
各区役所	心身障害者医療費助成	障害高齢課障害者支援係
各区役所	子ども・母子父子家庭医療費助成、児童手当	保健福祉課保育給付係
宮城総合支所	心身障害者医療費助成	障害高齢課障害者支援係

これに伴い、各区役所・宮城総合支所保険年金課の医療助成係を廃止し、左記の通り保険年金課の係を再編しました。

	新	旧
各区役所	保険給付係 保険料係	国民健康保険係 収納係
宮城総合支所	保険年金係	国保年金係

●各組織の業務内容は市ホームページでご覧いただけます

3・11震災文庫を読む 38

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。

記録を残す、記憶に遺す

東北大学附属図書館　事務部長　小陳（こじん）　左和子

「3・11キヨクのキロク、そしてイマ。」

NPO法人20世紀アーカイブ仙台／編
NPO法人20世紀アーカイブ仙台　刊

昨日まで当たり前にあった街並みが一瞬にして変わり、普通にやっていたことができなくなる。地震や豪雨、感染症拡大を体験した私たちは、日常を記録に残し記憶をつないでいくことの大事さを思い知らされました。

震災の1年後、地震直後に市民が撮影した写真1500枚を集めた記録集が刊行されました。本書はさらにその1年後の続編で、前作の中の400枚と、全く同じ場所で数カ月後に撮られた写真とが並んでいます。

日常が戻っているかのような場所もあれば、瓦礫（がれき）が撤去されただけのように見える場所もあります。しかしいずれも、人々の手により前に進もうとしてきた証しだと感じさせられます。

写真集とは対照的に、ひたすら文字が並ぶ記録もあります。東北大学の教員と学生の有志が、学内の構成員など90人の被災体験をまとめたものです。

「聞き書き震災体験　東北大学90人が語る3・11」

とうしんろく（東北大学震災体験記録プロジェクト）／編
新泉社　刊

あの日のあの時、学内にいた人、県外や海外にいてしばらく戻れなかった人、帰国すべきか迷った留学生など、多様な経験が赤裸々に語られています。

震災後、半年内の談話のため、起きたこと、見聞きしたこと、感じたことをまだ自分の中で整理しきれていない様子も伝わってきます。もし今、同じ人々に話を聴いたとしたら、どのような言葉が返ってくるでしょうか。

あれから間もなく10年。市民が紡いだこれらの記録を手に取りながら、周りの人々と改めて語り合う時間を持ってみてはいかがでしょうか。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます　問市民図書館☎261・1585